

学会等での発表

本プログラムの実施体制を確立するため、平成19年度に行政機関・地場企業・NPO団体等本事業を広く学外に公表するため、次のとおり学協会等に発表した。発表時の質疑応答も本事業にとっては、重要な情報となり、学修プログラムの実施に大いに参考となった。

その中で、「受講者の経歴はどうだったか」、「講座終了後正規就職者はどれくらいあったか」、「文部科学省からの事業委託期間が終了したあと、講座はどうするのか」等の質問を受けた。発表内容は以下のとおりである。

産学連携学会第6回大会 平成20年6月27日 大分市コンパルホール

0627C1530-1

社会人の学び直し講座の実践

— 求職者と企業に対するアンケート結果から —

工藤康紀（大分工業高等専門学校）

1. はじめに

平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の一つとして、大分高专では、「ITを中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」を申請し、採択された。この中で、特色でもある「ニート・フリーター」については、本校の取り組みとしては初めてのことであり、他の機関（行政、NPO法人、企業）等との協力をお願いして実施することとした。ここでは、それらの取り組みについて報告する。

2. アンケート調査（無業者向け、企業向け）の実施

この「学び直し」講座を実施するにあたって、本校では、二つのアンケート調査を実施した。一つは、定職に就いていない人（無業者）向け、もう一つは県内の企業向けである。このうち、無業者向けのアンケートでは、本校のプログラムの特色となっている「ニート・フリーター」等に関する調査をするために、彼らの相談等を引き受けている地域のNPO法人に協力をお願いした。また、「おおいた地域若者サポートステーション」にも協力をお願いした。いずれも面談による調査を行った。その結果19人から回答を得た。他の無業者向けアンケートは、ハローワーク、ジョブカフェや雇用紹介業者などに依頼して実施した。他に、街頭でも調査を行った。その結果231人から回答を得た。企業向けアンケートは、本校の卒業生がいる大分県内の主な企業250社に郵送により依頼し、94社から有効な回答を得た。

・無業者向けアンケートの結果より

年齢や性別構成：19歳以下が3.2%、20～24歳が24.0%、25～29歳が15.2%、30～34歳が17.6%、35歳以上が37.2%、無回答が2.8%。このうち、男性31.2%、女性66.8%、無回答2.0%。

現在、働いていない理由：「自分に合った仕事が見つからない」（28.8%）をトップに、「就きたい仕事に必要な技術・技能が身につけていない」（14.0%）、「年齢制限がある」（12.8%）、「職場の人間関係に自信がない」（10.8%）、「仕事に就くのが不安」（10.4%）、「採用してくれる企業がない」（10.4%）、「給与・時給が安い」（10.0%）。

仕事を選ぶとき重視する点：「やりがいやおもしろさがある」が56.4%で最も高い。次いで、「仕事安定していて失業の心配がない」（49.2%）、「自分の才能や能力を生かせる」（38.8%）、「仕事以外の自分の時間をもてる」（38.8%）、「安全で健康を害さない」（30.0%）、「高い収入が得られる」（24.4%）。

・企業向けアンケートの結果より

採用する企業が希望することはいろいろあるようだが、次のような記述があったのは、採用される側の無業者にとって、注意が必要と思われる。

・ワープロ、表計算、CADのスキルを身につければ、即、再就職でき即戦力になるかという、そうでもないのが現実だと思います。講座では各々のソフト利用のスキルアップばかりを目指すのではなく、応用能力や社会人としての意欲や協調性を培う工夫をしないと、就職先の間口が広がらないと思う。

・技術も必要ですが、コミュニケーション能力、ストレス体制等の要素も同じくらい重要と考えます。

3. まとめ

平成19年度、大分高专では4つのプログラム（ワープロソフト、表計算ソフト、2次元CAD、3次元CAD）を実施する予定であるが、4月から学修プログラム「WORD」の講座が進行中であり、6月に終了予定であるので、その様子については、当日報告する。

IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け 再チャレンジプログラム

藤本 高德 (大分高専 技術センター)

キーワード: 学び直し, ワープロ, 就職支援, IT教育, 社会人

1.はじめに

大分工業高等専門学校(以下本校という)は文部科学省の平成19年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」に採択された。「IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」として、本校独自の4つの学修プログラムを開発し、平成19年度より実施している。ワープロ講座が終了した時点での、成果や反省点を報告する。

何人かの受講生はこの講座で得た知識を基に就職活動を始めようとしている。このことを参考にして、他の学修プログラムをさらに充実していきたい。



図1. ワープロ講座の様子

2.学修プログラム

学修プログラムは「受講対象者を特に限定せず、再就職を求める社会人(ニート、フリーターを含む)へ仕事上必要となるIT技術の基本的な技能を与える」ことを目的としている。そこで、Microsoft Word, Microsoft Excel, AutoCAD, Solid Worksの4つの学修プログラムを表1に示すように4期に分けて実施する。各講座はそれぞれ10名程度の定員で実施し、講師は技術センター職員が担当し、補助として、本校の学生に協力してもらっている。

4.今後の課題

15人の受講生でスタートしたワープロ講座であったが、講座終了までの受講生は11名であった。講座のあり方、受講者に対する対応の仕方に問題はなかったか等を検討したい。今回の全ての講座は学内にて実施するつもりである。学外での講座実施の検討や、いわゆるニートといわれる方達にどのようにして、講座会場まで足を運んでもらえるかも検討していかなければならない。

3.ワープロ講座

学修プログラムのうち、IT技術の基本となるワープロソフト(Microsoft Word)を実施し終えた時点で、受講者10人に対してアンケートをとって講座に対する感想を聞いてみた。

その結果、設備、講座の進め方、メイン講師や補助講師の印象など、かなり高い評価をもらった。また、

問合せ先

氏名: ふじもと たかのり

連絡先電話番号: 097-552-7192

電子メールアドレス: fujimoto@oita-ct.ac.jp

表1. 学び直し学修プログラム実施計画案

	実施曜日	2008年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2009年1月	2月	3月
Word	1回/週 土曜日	← 2時間×10回											
Excel	1回/週 土曜日				← 2時間×10回								
3D-CAD	1回/週 土曜日							← 2時間×10回					
3D-CAD	1回/週 土曜日										← 2時間×10回		

開講時間 10時~12時

IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジ プログラム

工藤 康紀(大分高専 一般科理系)

キーワード: 社会人の学び直し ニート・フリーター カウンセリング CDA

1. はじめに

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の一つとして、大分高専では、「ITを中心とした社会人、ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」を平成19年度から実施してきた。本プログラムには「ニート・フリーター」というキーワードが含まれていること、CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)を当初から配置したことが特色である。

2. 社会人、ニート・フリーター

ニート・フリーターを対象としている県内のいくつかのNPO法人を訪問すると共に、ニート・フリーターを対象としてアンケートを実施した。これらのNPO法人に來談している人がすべてニート・フリーターとは限らないが、彼等の傾向を掴むには十分であった。その結果分かったことは、予想されたことではあるが、ニート・フリーターといわれる人々は、一般社会人に比較して就労意欲が低く、このような「学び直し」講座にさえ参加することは難しいのではないかとということだった。

そのため、平成20年度は一般社会人を中心に募集することとし、4つの学修プログラムを実施した。もちろん、受講者の中には、自分がニート・フリーターであると書いた人もいた。本校では、このような一般社会人向けの講座を長期にわたって実施した経験がなかったため、当初は手探りの状態から始めることとなった。各プログラムは10回の講座からなっていたが、その講座の途中で辞めていく受講者が出てきた。受講対象者は、「定職を持たない一般社会人(主婦、ニート・フリーターを含む)」として募集したが、ニート・フリーター以外でも、講座に続けて参加することが容易でないと感ずる人が多いことが次第に分かってきた。

3. カウンセリング

無業者向けに実施したアンケートからも就職できていない人達の傾向として、就職活動に対する抵抗、不安というものがあることは予想できたが、実際はそれが予想以上であった。就職試験に応募して断られる、或いは面接試験を受けて失敗することにより、自信を失

っていくのではないかとと思われる。

一方、企業向けに実施したアンケートからは、正規社員として就職できていない人は、どこか自分に自信を持っていないと感じる人や就労に不安を感じる人が多いことが分かってきた。そこで、カウンセラーに受講者の就職に関する様々な相談に乗っていただいた。講座に関することだけでなく、就職に向けた心構えや面接の受け方、履歴書や職務経歴書の書き方等々。その結果、欠席する受講者も減少するようになった。

ニート・フリーターの中には、学校と聞いただけで、身構えてしまう人もいることが分かったので、Excelの講座を本校以外の場所でも実施してみた。その際に、NPO法人に対しても積極的に受講者の募集を呼びかけた。その結果1名の受講者(A氏)を紹介して頂いた。A氏については、講座の第1回目から、講師と共にカウンセラーにも協力していただいて、その指導に積極的にあたった。その結果、A氏は講座の最後までしっかりと続けることができ、最後の修了式では涙を流すほどであった。

4. おわりに

定職を持たない「社会人の学び直し」教育を実施していくためには、ただ単に講義・実習を実施するだけでは不十分であり、彼等の内面の不安を取り除く工夫や自信を持たせることが必要である。特に、ニート・フリーターといわれるような人にとってはそれが大事な要素となる。講座内容もちろん大事であるが、まずは講座に続けて出席するように工夫することも大事な要素といえる。

その中で、ニート・フリーターを含む一般社会人向けの「学び直し」講座に於いては、CDAによるカウンセリングは、必要不可欠なものと思われる。今後同様の講座を実施する際には、重要な要素と考える。

お問合せ先

氏名: くどう こうき

連絡先電話番号: 097-552-6736

電子メールアドレス: kkudoh@oita-ct.ac.jp

j p

(20)産学連携教育-II
講演番号:6-211

「社会人の学び直し」教育とカウンセリングの必要性

Relearning of Public People and the Necessity of Career Counseling

○工藤 康紀^{*1} 藤本 高德^{*1} 軽部 周^{*1} 清武 博文^{*1} 手島 規博^{*1} 前 稔文^{*1}
Koki KUDO Takanori Hujimoto Shu KARUBE Hirofumi KIYOTAKE Norihiro TESHIMA Toshifumi MAE

キーワード: 学び直し, キャリアカウンセリング, ニート・フリーター
Keywords: Relearning, Career counseling, Neet&Job-Hopper

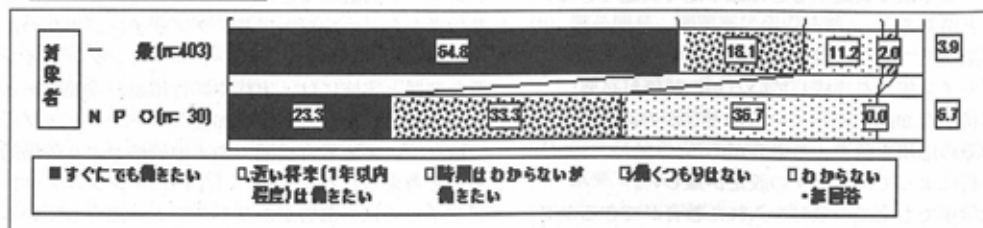
1. はじめに

大分高専では、文部科学省の委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に、「ITを中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」を平成19年度に申請し、採択された。本プログラムには、「ニート・フリーター」というキーワードが含まれており、他にない特色となっている。ただし、これらの事業を実施するにあたり本校では、ニート・フリーターを含む一般社会人に対して、講座を実施した経験がほとんどなかった。社会人向けの公開講座を実施した経験が少しあっただけである。

そのため、ニート・フリーターといわれる人達のことを知ることから始めた。大分県教育庁私学振興・青少年課より紹介していただき、ニート・フリーターを対象としている県内のいくつかのNPO法人に協力を願うこととした。これらNPO法人を訪問すると共に、ニート・フリーターを対象としてアンケート¹⁾を実施した。これらのNPO法人に来談している人がすべてニート・フリーターとは限らないが、彼等の傾向を掴むには十分であった。

その結果分かったことは、予想されたことではあるが、ニート・フリーターといわれる人々は、一般社会人に比較して就労意欲が低く、このような「学び直し」講座にさえ参加することは難しいのではないかということだった。(表1)

表1 就労意欲に対する回答



そのため、平成20年度は一般社会人を中心に募集することとし、4つの学修プログラム (Word, Excel, AutoCAD, Solidworks) を実施した。もちろん、受講者の中には、自分がニート・フリーターと書いた人もいた。このような一般社会人向けの講座を長期にわたって実施した経験がなかったので、当初は手探りの状態から始めることとなった。各プログラムは10回の講座からなっていたが、その講座の途中で辞めていく受講者が出てきた。本校座の受講対象者は、「定職を持たない一般社会人(主婦, ニート・フリーターを含む)」として募集したが、ニート・フリーター以外でも、講座に続けて参加することが容易でないと感ずる人が多いことが次第に分かってきた。

IT教育については、技術の取得をその第一義とすることが多いが、今回のような主婦, ニート・フリーターを含む「社会人向け」講座にあっては、その前に注意すべきことがある。特に、彼等の精神的なバックアップの必要性が強く感じられる。

2. カウンセリングの必要性・重要性

「ニート・フリーター」というキーワードが含まれていること以外に、本校の講座の特色として、当初からカウンセラーを配置したことがあげられる。最初は、講座の講師を務める本校の職員が一般社会人(主婦, ニート・フリーターを含む)に対してどう対処したら

良いかという点を中心にカウンセラーに相談にのって

^{*1} 大分工業高等専門学校

いただいた。ところが、講座が進むに連れてそれだけでは不十分であり、むしろ受講者の就業に関する相談の方が重要になってきた。幸いに、本校が外部からお願いしたカウンセラーは、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を持ち、就職をめざす本講座の受講者にとっては、たいへん好都合であった。

無業者向けに実施したアンケート¹⁾からも就職できていない人達の傾向として、就職活動に対する抵抗、不安というものはあることは予想できたが、実際はそれが予想以上であった。就職試験に応募して断られる、或いは面接試験を受けて失敗することにより、自信を失っていくのではないと思われる。

一方、企業向けに実施したアンケート¹⁾からは、次のような厳しい指摘も頂いた。「ワープロ、表計算、CADのスキルを身につければ、即、再就職でき即戦力になるかという点、そうでもないのが現実だと思います。講座では各々のソフト利用のスキルアップばかりを目指すのではなく、応用能力や社会人としての意欲や協調性を培う工夫をしないと、就職先の間口が広がらないと思う。」「技術も必要ですが、コミュニケーション能力、ストレス耐性等の要素も同じくらい重要と考えます。」など。これからもわかるように、正規社員として就職できていない人は、どこか自分に自信を持っていないと感じる人や就労に不安を感じる人が多いことが分かってきた。そこで、カウンセラーに受講者の就職に関する様々な相談に乗っていただいた。講座に関するだけでなく、就職に向けた心構えや面接の受け方、履歴書の書き方等。その結果、欠席する受講者も減少し、最後まで続けることができるようになった。

ニート・フリーターの中には、高専と聞いただけで、身構えてしまう人もいたことが分かったので、Excelの講座を本校以外の場所でも実施してみた。その際に、NPO法人に対しても積極的に受講者の募集を呼びかけた。その結果1名の受講者（以下、A氏とする）を紹介して頂いた。A氏については、講座の第1回目から、講師と共にカウンセラーにも協力していただいて、その指導に積極的にあたった。その結果、A氏は講座の最後までしっかりと続けることができ、最後の修了式では涙を流すほどであった。また、大学で人間不信におちいり中退した経歴を持つ人（B氏）もいた。B氏は、カウンセラーの人とは十分にコミュニケーションを取ることができ、回を増すごとに次第に打ち解けてきて、講座にも集中することができるようになり、無事に修了することができた。

本講座では、各プログラム終了6ヶ月経過後に再び受講者に対する就業状態アンケート²⁾を実施した。そ

の中で、講座の最終回にもらった修了証書に対して「自分自身の気持ちとして形に残る物なのでとてもうれしかったです。」とか、「私は、本当にパソコンが扱えなかったので、困っていました。今回受講させていただいて、就職先でも、Excelを使って入力などできるようになりました。もし、また再就職する機会があったら、修了証書、合格証を役立たせて頂きたいと思います。」というように、それまでは仕事に何となく不安を抱いていた人が、この講座を修了することによって自信を持つことができるようになり、積極的にアピールすることができるようになっていた。

以上見てきたように、ニート・フリーターを含むような一般社会人向けの「学び直し」講座に於いては、CDA（キャリア・ディベロップメント・アドバイザー）によるカウンセリングは、必要不可欠なものと思われる。今後同様の講座を実施する際には、重要な要素と考えられる。

3. おわりに

定義を持たない「社会人の学び直し」教育を実施していくためには、ただ単に講義・実習を実施するだけでは不十分であり、彼等の内面の不安を取り除く工夫や自信を持たせる工夫が必要である。特に、ニート・フリーターといわれるような人にとってはそれが大事な要素となる。そうしないと、講座で長続きしないし、就職活動にも取り組めない人が多くいる。講座内容ももちろん大事であるが、まずは講座に続けて出席するように工夫することも大事な要素といえる。それから、絶えず励まし、バックアップする体制を準備することが必要といえる。

最後に、本校で昨年度実施した講座の実施修了状況等の一覧を載せる。（表2）

講座名	応募総数	受講者数	平均出席回数	修了者数	能力認定試験平均点	合格者数
Word	54 (申込者数)	14 (受講者数)	7.36	10	60.50	5
Excel(学内)	33 (申込者数)	16	9.06	16	86.06	15
AutoCAD2008	65	14	7.50	10	87.83	8
Excel(学外)	18	8	9.00	7	95.38	8
SolidWorks	33 (申込者数)	11	7.09	7	68.33	5

注および参考文献

- 1) 「ニーズ調査報告書 vol.2」2009年2月, 大分高専
- 2) 「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム 依託業務成果報告書」2009年3月, 大分高専

0818B0900-4

社会人の学び直し講座の実践Ⅱ

大分工業高等専門学校：

社会人の学び直し第一実行委員会（工藤康紀、福永圭悟、亀野辰三、藤本高德、軽部 周、清武博文、手島規博、前 稔文）

社会人の学び直し第二実行委員会（藤本高德、佐藤 栄、山崎勝翁、吉岩哲也、衛藤賢一、高石伸一、岩本光弘、高橋健一）

1. はじめに

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」として平成19年度に「ITを中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」が採択され、平成20年度に4つの学修プログラムを実施した。このような一般社会人向けの講座を長期にわたって実施した経験がなかったため、当初は手探りの状態から始めることとなった。各プログラムは10回の講座からなっていたが、その講座の途中で止めていく受講者が出てきたが、その原因と対策について報告する。

2. カウンセリングの重要性

本校のプログラムでは4つの講座（ワープロ、表計算ソフト、2次元CAD、3次元CAD）

表-1 Word講座への出席状況

受講者	実施回数										出席回数
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	9
2	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	7
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
4	○	○	○	△	○	△	○	○	○	△	7
5	初回から欠席、その後も連絡取れず										0
6	○	○	○	自己都合により辞退							3
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
8	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	8
9	○	○	仕事(パート)の都合で辞退								2
10	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	9
11	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	9
12	○	○	○	△	○	○	△	△	△	○	6
13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
14	○	○	講座内容に興味を持たず辞退								2
15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10

を順次実施した。各講座は、2時間の講義10回（合計20時間、約3ヶ月間）からなる。ところが、各講座を実施する中で、欠席したりして途中で止めたりする人が予想以上に出てきた。（表-1）

無業者向けに実施したアンケートからも就職できていない人達の傾向として、就職活動に対する抵抗、不安というものがあることは予想できたが、実際はそれが予想以上であった。就職試験に応募して断られる、或いは面接試験を受けて断られることにより、自信を失っていくのではないかとと思われる。

「Word講座」では、欠席者が増えてきたので、

次の「Excel講座」では、キャリアカウンセラーに積極的に相談を実施するようにし向けたところ、欠席者はかなり減ってきた。

表-2 平成20年度 講座実施状況一覧

（表-2）ところが、その次の「AutoCAD講座」では、またもや途中で欠席する人が増えてきた。最後の「SolidWorks講座」でもかなりの欠席者がでてきている。

講座名	応募総数	受講者数	平均出席回数	修了者数	能力認定試験平均点	合格者数
Word	54 (辞退2含む)	14 (退考15名)	7.36	10	60.50	5
Excel(学内)	33 (辞退1、FAK退3含む)	16	9.06	16	86.06	15
AutoCAD2008	65	14	7.50	10	87.63	8
Excel【学外】	18	8	9.00	7	95.38	8
SolidWorks	33	11 (退考12名)	7.09	7	68.33	5

3. 対策と今後

本プログラムでは、「受講対象者を特に限定せず、再就職を求める社会人（主婦、ニート、フリータ等を含む）」とだけしているので、実際の受講者の決定に当たっては、提出された「応募動機」だけを重視して決めてきた。そのため、CADとはどのようなものであるかを良く理解せずに応募した人もいたようである。そこで、次年度からはCAD講座実施にあたっては、事前のアンケートを実施し、応募者のパソコン技術力を事前に把握するように変更した。その後どうなったかは、学会当日に発表する予定です。